

ボランチ♥通信 Vol.29

2019年2月19日発行

上智大学ボランティア・ビューロー (2号館 1F 学生センター⑧窓口)
Tel : 03-3238-3525 Mail : volunteer@cl.sophia.ac.jp
Twitter : @SophiaVolante



ボランティア・ビューロー窓口には、多くのボランティア情報を用意しています！お気軽に足を運んでください。

「東北を盛り上げたい人必見！～釜石発・甲子柿の魅力に迫る～」イベントを開催しました。

12月14日(金) 11号館1階SSICにて、みちのくrenaissanceが「東北を盛り上げたい人必見！～釜石発・甲子柿の魅力に迫る～」イベントを開催しました。当団体は11月のソフィア祭にて釜石の特産品「甲子柿(かつしがき)」のドリンクを販売し、好評を博しました(この様子はボランチ通信2018年末号に掲載しています)。上智大学グローバル・コンサーン研究所主催で行われた今回のイベントでは、みちのくrenaissanceメンバーの活動報告に加え、創作農家レストランこすもす及び甲子地区生産者組合代表の藤井サエ子様と、希望の壁プロジェクト実行委員会代表の藤井了様にご講演いただきました。参加者は甲子柿ジャムの試食とともに、東北の魅力や年月を経ても忘れてはならない震災当時の貴重なご経験を知ることができました。後半は参加者でフリートークを行い、理解を深めました。みちのくrenaissanceの活動目的である「東北を五感で知ることから現地との繋がり方を考える」大きなきっかけになりました。



今回の企画を行うにあたり、藤井ご夫妻や来場者の方々をはじめ、多くの方にご協力頂きました。皆様のおかげもあり、「釜石愛」に溢れる会になったと思います。本当にありがとうございました！今後とも「東北を五感で知ることから現地との繋がり方を考える」を軸に活動してきますので、応援頂けると幸いです！
法学部法律学科3年 竹淵 航草さん

NEXT100プロジェクト 英語&ボランティアカフェ

11月24日(土)に上智大学目白聖母キャンパスで「NEXT100プロジェクト 英語&ボランティアカフェ」を開催し、学生ボランティアが企画運営をサポートしました。今回のイベントでは恒例となっている「赤ちゃん先生」で、参加者に「未来の親」体験をしていただいたり、会話に役立つ英語クイズを楽しんでいただいたりしました。



※NEXT100は、ソフィアン同士が共通の考え方や趣味、文化、ビジネス、ボランティアなどを通じてつながる、助け合う、一緒に楽しみながら、毎日の暮らしの中に豊かに息づく(新しいつながり)を創っていく、というプロジェクトです。「赤ちゃん先生」企画は今年度5月のASF(オールソフィアンズフェスティバル)でも開催され、今回と同様に学生ボランティアが活動に参加しました。

課外活動団体 上智大学フラスークル Hau'oliによる高齢者福祉施設イベントでのボランティア



↑千代田区発行のボランティア広報誌の表紙になりました！

こちらの情報誌は学生センターに配架してありますので、ご希望のかたはお立寄りください。

千代田区社会福祉協議会からお声がけをいただき、11月24日(土)千代田区の高齢者福祉施設「ジロール麹町」にてフラダンスを披露、ワークショップをさせていただきました。利用者の皆様、とても素敵な笑顔で踊ってください部員一同幸せな気持ちになりました。地域活動に携わる貴重な機会をいただき光栄です。ありがとうございました。

理工学部情報理工学科3年 横山佳奈さん

平成30年・夏自然災害報道写真展・倉敷ボランティア報告展示～ぬくもりをわかちあおう～を開催しました。

復興支援学生企画として「平成30年夏自然災害報道写真展・倉敷ボランティア報告展示～ぬくもりをわかちあおう～」を1月8日(火)～14日(月)の期間、開催しました。



この企画は、12月に平成30年7月豪雨災害の復興支援ボランティア活動として岡山県倉敷市での活動に参加した学生を中心に、災害の情報や防災のこころ、そして被災された方々とのつながりの気持ちを広めたい、という思いから企画されました。期間中、2号館エントランスでの写真・書道作品の展示と、8号館ピロティでのチャリティ味噌汁販売を日ごとに行ないました。

●チャリティ味噌汁販売

12月の活動の際に、被災当時のお話を伺った総社市の「まるみ麴店」さんのお味噌を使用させていただき、岡山県産の野菜もたっぷり利用した学生手作りのお味噌汁を販売し、復興への思いのぬくもりをわかちあいました。お味噌汁をお買い上げいただいた方には、株式会社山方永寿堂様ご協賛の岡山名物きびだんごをお渡しさせていただきました。一つ一つの包みを選ぶのが楽しく、あたたかい笑みもこぼれました。チャリティ味噌汁の売上総額21,526円はカリタスジャパンにお送りし、西日本豪雨災害の復興支援活動に活用されます。皆様のご協力、誠にありがとうございました。



↑1月初旬の寒さに負けず、笑顔でお味噌汁を販売するボランティア学生。学生・教職員多くのかたに暖かいお味噌汁を楽しんでいただきました。

←まるみ麴屋本店さまよりお送りいただいた味噌

●朝日新聞社 平成30年・夏自然災害報道写真展

2号館エントランスにて、平成30年7月豪雨災害のほか、大阪府北部地震、北海道胆振東部地震など昨年に起こった災害の写真(朝日新聞社撮影)を展示。改めて自然災害が多発した年を振り返り、復興や防災について考えるきっかけを掴みました。

●岡山県立倉敷商業高等学校書道部の作品『今を生きる』展示

この作品は避難所やボランティアセンターで掲げられた際に、多くの方々を勇気づけてきたものです。縦2メートル・横5メートルの作品は多くの人目を引き、力強いメッセージはとても特別なものでした。ご覧頂いた方々からは「本当に素晴らしい」、「ずっとこの作品の前に佇んでいたい」という声も聞かれました。



↑朝日新聞社 平成20年・夏自然災害報道写真展

→ 『今を生きる』展示

ボランティア♥通信 Vol.29

2019年2月19日発行

上智大学ボランティア・ビューロー (2号館 1F 学生センター⑧窓口)
 Tel : 03-3238-3525 Mail : volunteer@cl.sophia.ac.jp
 Twitter : @SophiaVolante



ボランティア・ビューロー窓口には、多くのボランティア情報を用意しています！お気軽に足を運んでください。

復興支援ボランティア活動

2011年の東日本大震災発生からまもなく8年が経とうとしています。震災以来、本学学生は個人や団体単位で復興支援に関わるボランティア活動を行っており、いま年間約250人(※注)の学生が東北へのボランティア活動に参加しています。毎年・毎月と継続的な活動をしている学生や団体も多く、今回はその中から、2018年12月～2019年1月に行なわれた活動の一部を、学生の活動報告と共に紹介します。

※注：ボランティア・ビューローの交通費補助制度を利用した学生に限った数字。

上智聖歌隊

期間：12月8日(土)～9日(日)
 人数：12名

宮城県気仙沼市
 岩手県一関市

団体情報

学内で行われているミサや、クルトゥルハイムでの結婚式、大学の学位授与式・入学式で聖歌の奉仕を行なう。例年12月に気仙沼市を訪問し、公民館や教会等で聖歌の披露を行なっている。

行程

- 12月8日(土)
 AM 東京駅より新幹線から在来線に乗り継ぎ移動
 PM 面瀬公民館にて聖歌を歌い、気仙沼在住の方々(面にお年寄りの方)と交流、一緒に合唱など外部の食事先にて、地元の方に数曲聖歌を発表
- 12月9日(日)
 AM カトリック気仙沼教会にて、待降節第2主日のミサに参加、ミサ後に別の聖歌を発表
 PM リアス・アーク美術館にて展示の鑑賞
 岩井崎、大谷海岸駅、大籠キリシタン殉教公園をまわり、キリシタン殉教公園にて展示の鑑賞と地元住民の方へ聖歌の発表
 新幹線にて東京へ

岩井崎：気仙沼市内、三陸復興国立公園に含まれる岬。東日本大震災で甚大な被害を受ける。
 大谷海岸駅：JR東日本気仙沼線の駅。東日本大震災で発生した津波により駅舎が一部損傷、線路は津波に流された。
 大籠キリシタン殉教公園：岩手県一関市。江戸初期に300人を超すキリスト教徒が殉教した歴史を伝える公園。



(左) 例年訪れている面瀬公民館で、今年も聖歌を披露させていただきました。
 (右) 終了後、参加された地元の方々とお茶っこをしている様子。様々なお話を伺うことができました。



活動報告書より

リアス・アーク美術館の展示にあった、「被災者は元気であるように振舞っているが、本当は心に傷を負っている人が多い」というような解説が非常に印象に残っています。昨年度もこのプログラムに参加させていただきましたが、その時は「被災者の皆さんから元気をもらった」というような感想をこの報告書に書いた覚えがありますが、自分のこの感想がいかに安直であったか思い知らされました。面瀬公民館のクリスマス会に毎年いらして、一番前の席で楽しそうに体を揺らして耳を傾けてくださった女性も、本当は心の何処かに未だ癒えぬ傷を持っているのかもしれないと思うと、今の自分が情けなくなります。被災者の方々の元気さに甘えるのではなく、寄り添うことが一番求められているものと確信します。

Habitat for Humanity 上智支部

期間：12月14日(金)～16日(日)
 人数：41名

宮城県
 南三陸町・石巻市

行程

- 12月14日(金)
 PM10:30 バスで上智大学出発
- 12月15日(土)
 AM6:30 石巻市立大川小学校訪問
 AM7:00 南三陸町防災対策庁舎訪問
 AM9:00-PM3:00 ボランティア活動(墓石、寺周辺の清掃)
 PM5:00-PM6:00 「気仙沼ほっこり湯」にて入浴
 PM6:45-PM7:30 大沢ドライブインにて夕食
 PM8:00 石泉(いしずみ)活性化センター到着
 PM8:30-PM9:30 津波の映像鑑賞、振り返り
- 12月16日(日)
 AM6:30 起床
 AM8:30-AM11:30 ボランティア活動(墓石周りの清掃、雑草の駆除)
 PM12:00 南三陸直売所みなさん館にてBBQ
 PM8:30 バスで帰京。上智大学着

石泉活性化センター：南三陸町歌津地区。東日本大震災後発生後には避難所として使用された。
 南三陸直売所みなさん館：「南三陸町」の「みなさん」が力を合わせて地域づくりをしていく場として、2012年10月にオープン。南三陸町の新鮮な地場産品やおみやげ物を販売している。

団体情報

世界80カ国で展開する国際NGOの上智支部として活動する課外活動団体。海外住居支援プログラム・東京都内での清掃活動・炊き出し活動のほか年に2回、東北での復興支援ボランティア活動を行なっている。



留学生・帰国生など国際色豊かなHabitatは、2011年の震災当時には海外にいたというメンバーが多数。今回の参加者41名中39名が初めての東北被災地訪問です。現地の状況を肌で感じさせていただくことは大きな学びとなり、自国のことにも置き換えて防災・復興・人のつながりについて考える機会にもなりました。



↑津波でお墓と本堂を流されたお寺のお墓の掃除。心を込めて、丁寧に清めさせていただきました。



↑竹林の伐採お手伝い。長い竹を運ぶのは力が要る作業なので、大学生のパワーの見せどころです。



↑南三陸町を支えるホタテやカキの養殖業の漁具を作るお手伝い。初めての作業ですが、漁師の方々に分かりやすく教えて頂きコツを掴みます。

活動報告書より

I thought that the important thing is that we do not forget and we keep on letting people outside of Tohoku about what happened on the day. The problem is that from the people outside of Tohoku, it seems as though the city as well as its people have fully recovered from the earthquake and tsunami, which clearly is not true. Many people who have lost their loved ones are still struggling from the damage. Many of the people's lives and the local businesses are not back to how they were before the disaster although 7 years have passed.

私は東北へ赴き、震災ボランティアの活動に参加したのは今回が初めてであった。現地に赴き最も記憶に残ったことは、石巻市立大川小学校である。東日本大震災が起こったのは私が小学5年生の時であった。生きていれば今の自分と同世代であった子どもたちが何人も居ると思うと、胸が痛くて仕方がない。そして生き残った彼らの親族はより一層深い傷を負っていると思うと、心が苦しくなった。現地に行かなければ絶対に分からない東北のありのままの姿を自分の目で見る事が出来、そして多くのことを学ぶ機会になったと思う。今後、活動に参加しようと考えている学生にも、どうか「東北のありのままの姿、を見て欲しい」と願う。

ボランティア♥通信 Vol.29

2019年2月19日発行

体育会サッカー部 × Go Beyond

宮城県南三陸町 期間：2月2日(土)～3日(日)
人数：32名

体育会サッカー部と、ソフィア オリンピック・パラリンピック 学生プロジェクト Go Beyondが協働して宮城県でのボランティア活動に参加しました。

Go Beyondは今回が初めての被災地ボランティア参加。「2020年東京オリンピック・パラリンピックは復興五輪と銘打たれているが、自分たちが東日本大震災の被災地を見ずしては話せない」との思いから、活動参加を決めました。

2日間を通し、南三陸町でのボランティア活動（浮き玉の掃除・ホタテ貝殻の穴開け・針金通しなど）と震災遺構見学のほか、サッカー部はFC南三陸スポーツ少年団、歌津中・志津川高校・本吉響高校の各サッカー部とそれぞれサッカー交流。共に昨年度も参加した児童・学生もいて、久しぶりの再会を果たすことができました。

2019年・2020年、そしてその先の復興と共生の心の広まりをめざし、これからもつながりを持たせていただきたいと思います。



↑サッカー交流の様子。昨年の訪問時には小学校がグラウンドに仮設住宅がありましたが、今年はありませんでした。



↑ホタテの貝殻の穴あけ作業。東京では見たことのない貝の多さにも驚き、一つ一つが南三陸を支えていくことを願いながらお手伝いさせて頂きました。



↑養殖用の浮きの掃除。次のシーズンに向け、付着している海藻や貝等を綺麗に取り除きます。



↑ホタテの貝殻の穴あけ作業。東京では見たことのない貝の多さにも驚き、一つ一つが南三陸を支えていくことを願いながらお手伝いさせて頂きました。

団体情報 (体育会サッカー部)

東京都大学サッカー1部リーグ所属。2018年度ソフィアスポーツ大賞受賞。2017年2月にも約30名で南三陸町を訪問し、今回と同様に遺構見学、現地の小学生・高校生とのサッカー交流などを行なった。

団体情報 (Go Beyond)

上智大学平昌パラリンピック調査団として派遣された学生2名を基に、2018年6月に発足し、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催を機に、学生としての目線から、パラスポーツの魅力発信・多様性の理解向上といった共生社会の実現に繋がる様々な活動に取り組んでいる。現在のメンバー数は約80名。



↑最前列がGo Beyondメンバー、2～4列目がサッカー部員。学年・組織を越えた学生が活動を共にすることで、より一層、知見や経験を深めることができました。

←今回の訪問は地元の新聞「三陸新報」2月5日付に掲載されました。



上智大学ボランティア・ビューロー (2号館 1F 学生センター⑧窓口)
Tel : 03-3238-3525 Mail : volunteer@cl.sophia.ac.jp
Twitter : @SophiaVolante



ボランティア・ビューロー窓口には、多くのボランティア情報を用意しています！お気軽に足を運んでください。



人口 63,867人 (平成30年12月末現在)



[東日本大震災における被害]
大津波に加え、流出した石油の引火による広域火災も発生し、甚大な被害を受けた。

- ・死者・行方不明者数：1,357人
- ・住宅被災棟数：15,815棟 (平成26年3月31日現在)
※気仙沼市ホームページより

[ピックアップ情報]

・「復興のシンボル」として整備が進められてきた気仙沼市本土と離島の大島を結ぶ「気仙沼大島大橋」が2019年4月に開通予定！

人口 12,987人 (平成30年12月末現在)

[東日本大震災における被害]

- ・死者・行方不明者数：831人 (平成30年2月28日現在)
- ・住宅被災棟数：6,642棟 (平成30年2月28日現在)
※南三陸町ホームページより

[ピックアップ情報]

・2016年、カキ養殖が、環境や地域社会に配慮した養殖業だけが取得できる国際的な認証「ASC (水産養殖管理協議会) 漁業認証」を日本で初めて取得。



人口 33,842人 (平成30年12月末現在)



[東日本大震災における被害]

- ・死者・行方不明者数：1,040人
- ・住宅被災棟数：3,656棟
※釜石市ホームページより

[ピックアップ情報]

・小中学生が自らの判断で避難し、命を守った経験は「釜石の奇跡」と呼ばれ、防災教育の教訓とされている。
・ラグビーの聖地として有名。2019年はラグビーワールドカップが開催される。



人口 482,541人 (平成30年12月末現在)

[平成30年西日本豪雨災害における被害]

- ・死者数：61人 (岡山県全体。うち52人が倉敷市)
- ・住宅被災棟数：16,624棟 (岡山県全体)
※内閣府防災情報ページより

[これがオススメ!]

・岡山市と並ぶ県下第二の都市。倉敷美観地区では、白壁・なまこ壁などが特徴的な美しい町並みが保存されている。

活動報告書より

サッカー部は、現地の小学生・中学生・高校生とのサッカー交流と、牡蠣の養殖を行なっている方のお家で養殖に使用する採苗器を作るボランティアを行いました。

今回のボランティアを通して色々な話を聞き、自分で被災地の現状を見て、知ることができ非常に良い経験となりました。またボランティア団体の代表の方が、震災を忘れずにボランティアに来てくれることが何よりも大切なことだと仰っていました。東京にいる人はもう昔の話と思うかもしれませんが、しかし実際復興は進んでいても終わりはありません。なので今後も自分にできることを1つずつ見つけてやっていきたいと強く思いました。

体育会サッカー部 大塚 潤也さん

GoBeyondは、牡蠣やホタテの養殖をしている高橋さんのお家で養殖に使用するフロートを清掃するボランティアをさせていただきました。漁業の大変さや、人との繋がり大切さ、自分で自分の身を守ることの重要性を学ぶことができ、非常に充実した時間でした。一言に「復興」といっても目に見える部分での道路や家の建て直しだけではなく、被災された方々の精神的な面での復興についてまだまだやるべきことがあるのではないかと感じました。

Go Beyond 山本 華菜子さん

復興支援ボランティア活動をする学生の皆さんへ

交通費補助制度を活用してください！



上智大学では、復興支援ボランティア活動を行なう学生が活発な支援活動を継続できるよう、交通費の補助をしています。制度詳細についてはLoyola掲示板 (ボランティア) に掲出しています。ご興味のある方はボランティア・ビューロー窓口へお問合せください！

注) 3月中の活動については3月5日(火)までの事前申請が必要です。

STEP 1: 事前申請

活動先への申込完了後「事前申請書」を提出し、ボランティア・ビューロー開催の事前研修(活動未経験者は必須)を受講する

STEP 2: 活動

指定の「活動証明書」に活動先責任者等の署名・捺印を受ける

STEP 3: 事後申請

「活動証明書」「活動報告書」「交通費補助申請書」「交通費の領収書(原本)」をボランティア・ビューローに提出する

交通費補助